公益社団法人
愛知県臨床検査技師会報

No.429.2017.12.1
12月号

# Labo News

## らぼニュース

発 行 所　公益社団法人愛知県臨床検査技師会
住　　所　名古屋市中村区名駅5-16-17
　　花車ビル南館　〒450-0002
電　　話　052-581-1013
F A X　052-586-5680
ホームページ　http://www.aichi-amt.or.jp/
Eメール　aamt@aichi-amt.or.jp
取引銀行　三菱東京UFJ銀行 柳橋支店
　　普通口座731-677
発 行 人　椙山広美
編 集 人　山田　真

## No.429　目次

◆平成29年度日臨技中部圏支部
医学検査学会報告　その2…… (2)
◆第40回愛臨技スポーツ大会・懇親会報告‥ (6)
◆公益社団法人愛知県臨床検査技師会　学術部門
学術部研究班 班員募集のお知らせ…… (7)
◆平成29年度病理細胞検査研究班
基礎講座に参加して…… (8)
◆微生物検査研究班　基礎講座に参加して‥ (9)
◆地区研修会のご案内
尾張東地区研修会・知多地区研修会
西三河地区研修会・尾張南地区研修会‥ (10)
◆平成29年度　中部圏支部
病理細胞検査研修会…… (11)
◆研究会…… (11)
◆平成29年度愛臨技スキルアップ研修会‥ (12)

## 精度管理事業部の活動について

精度管理事業部長　　佐野 俊一

従来、医療機関内における検体検査の精度の確保に関しては、法律上の規定がありませんでした。しかし安全で適切な医療提供の確保を推進するため、平成29年６月、医療法等の一部を改正する法律が可決され、品質・精度の基準が医療法上に明記されることとなりました。本年度の愛知県臨床検査精度管理調査はそんな中、募集が始まり、過去最高の136施設からの参加申込みがありました。本年度は特にクリニックや診療所といった従来、あまり参加していない施設からの参加が目立ちました。当会の精度管理事業は数年前から愛臨技会員施設だけにとどまらず、非会員施設でも参加可能になっています。精度管理の重要性はますます高まっており、是非多数のご参加をいただくようお願いいたします。

このらぼニュースが皆様のお手元に届く頃には、本年度の精度管理・結果検討会も終わっていることと思います。この検討会は全国の都道府県技師会で唯一、愛知県だけがシステム的に実施しているサポート事業です。単にデータ解離の是正だけではなく、施設が抱えている問題点を相互に確認し、解決策を導き出す過程をサポートする場で、本年度も31施設からの参加をいただき、盛会裡に執り行うことができました。やむを得ず欠席となったご施設は基幹施設担当者や各研究班班員に気軽に相談していただければ幸いです。なお、基幹施設の担当者や連絡先は当会HPから検索できますので是非ご活用ください。

精度管理調査には多くマンパワーが必要です。評価に関する目標値設定には、各試薬メーカーの協力が不可欠です。また県下７基幹施設の委員の協力のもと、基幹施設小委員会において臨床化学、免疫血清、血液の各部門について評価の妥当性について検討しています。そのほか、各研究班班員のご助言で設問作成や評価設定に協力いただいています。このように精度管理事業部員だけではなく、さまざまな方面からの協力をもって精度管理調査を実施させていただいており、この場をお借りし深く感謝申し上げます。

さて、本年度の活動も残すところ総括集発行と精度管理報告会の開催となりました。本年度の報告会は平成30年３月17日（土）に名古屋第一赤十字病院で開催します。多数のご参加をお待ちしております。

# 平成29年度日臨技中部圏支部医学検査学会報告　その２

## イブニングセミナーに参加して

### 明日から役立つ実践力アップ 認定心電図検査技師研修会

厚生連海南病院　　柳町ちひろ

平成29年９月29日（金）に開催された第56回日臨技中部圏支部医学検査学会の前日に開催されたイブニングセミナー『明日から役立つ実践力アップ 認定心電図検査技師研修会』に参加しました。会場には他県からの参加も含め100名を越し、学会前日にも関わらず多数の参加者がありました。

冒頭には愛知県臨床検査技師会会長の椙山先生による挨拶があり、今回のイブニングセミナーのテーマである明日から役立つ実践力アップについてのお話がありました。

『不整脈診断（治療）に繋がる心電図判読』ではルーチン業務でも目にする事がある不完全3枝ブロックのペースメーカなどの治療も含めた内容がとても興味深かったです。CTR（心臓再同期療法）はあまりなじみがなかったのですがスライドも理解しやすく、ペースメーカ心電図記録の際はより注意深く判読する必要があることを改めて感じました。上室性頻拍については難しい内容をかみ砕いて説明して頂き心電図初心者でも大変参考になりました。よく分からないことから苦手意識を持ってしまいがちなペースメーカや不整脈について理解を深めることができたと思います。

『ICM植込み型心臓モニタの概要について』では普段見ることがない生体に植込む機器を実際に見て触ることができました。

『救急の心電図』では15症例をＱ＆Ａ方式で提示され、心電図波形の読み方の基本から学ぶことができました。心電図と冠動脈に関する事や、薬剤や治療に関することなど臨床医側の考えや意見を知る貴重な経験となりました。

３名の講師陣はいずれも経験豊富で今日学んだ事は、冒頭のテーマの通りすぐに役立つ知識であり、実践力アップにつなげていければと思います。

### “明日から役立つ”輸血業務コミュニケーション研修会

医療法人山下病院　林　　聡

私は病床数102床の規模の小さい病院に勤めておりますが、いざ緊急輸血の場面に立ち会ったとき、どのような対応をするべきか学ぼうと思い、今回の研修会に参加しました。

今回の研修会では「ブレーンストーミング」と、コミュニケーションについて学びました。「ブレーンストーミング」では、ポストイットを使い、実際の対応に失敗した例を見て、問題点や改善すべき点など気づいた点を参加者それぞれが書き出し、ホワイトボードに貼り、意見をまとめていくという方法でした。実践は１班４名で行いましたが、「他の方

と同じ意見だから意見を出さない」とか「恥ずかしい」といったネガティブな感情がなくなり、前向きに意見を出すことができました。アイデアを練るのに非常にいい方法で、今後そのような機会があれば使いたいと思いました。

コミュニケーションについては、コミュニケーションの難しさを意識することが大切だと教わりました。自分の考えや気持ちを相手に伝えるが、相手のことも配慮する「アサーティブ」な伝え方が有効だということ。アサーティブに伝える方法としてI(私)を主語とする「Iメッセージ」を使うことで柔らかな表現になること。問題解決にはDESC法が有効だと教わりました。実践では、緊急輸血を想定した医師と技師とのやり取りをロールプレイしました。それぞれのやり取りについて、良いところ、直した方がいいと思われる点を挙げていきました。技師として、医師として、またはオブザーバーとして、やり取りを見ると良い点と反省すべき点がはっきりとわかりました。

緊急輸血の場面では、お互い冷静ではない状態が相手に誤解を招くことが多いと思います。そういう時こそ、話をする前に今お話してもよろしいでしょうか？などクッション言葉を使いつつ相手の意見を尊重しながらも、自分の意見を伝える姿勢や心がけが大切なのだと感じました。

また輸血班の班員や他施設の方ともお話をする機会があり、非常に有意義な時間を過ごすことができました。今回学んだことを日々の仕事に還元していくだけでなく、こうした機会には積極的に参加し、多くの意見交換ができるよう、今後も研鑽を積んでいきたいと思います。

## “明日から役立つ”免疫染色の現状とこれから

碧南市民病院　井上　正朗

９月29日（金）名古屋国際会議場２号館第６会場で、平成29年度日臨技中部圏支部医学検査学会前日イブニングセミナー研修会Ⅲ・病理「“明日から役立つ”免疫染色の現状とこれから」が行われ、平日夜にもかかわらず64名の参加がありました。

講義Ⅰ「免疫染色の基礎と応用」では、抗体の種類や染色方法による特徴、プレアナリシスの影響等の基礎的な話と、がんの遺伝子異常に対する免疫染色の利用方法、細胞診検体での染色時の注意事項などを聞くことが出来た。

講義Ⅱ「病理検査の精度管理における認定病理検査技師の役割」では認定技師としての初心を思い出すとともに、記録を残すことの重要性を確認しました。また、真空パックを用いた固定法の紹介や、ミルフ

ィーユ型マルチコントロールの作成法など実際の業務の中に取り入れたい情報も多数あった。

講義Ⅲ「どう読む？免疫染色の結果－上皮性腫瘍を中心に－」では、病理医が免疫染色をどの様に診断に利用しているか、多数の症例を見ながら解説をして頂き、染色を行う際の心構えの参考になりました。

イブニングセミナー参加して認定病理検査技師としての責務を再確認し、若手の育成や精度保証、技術向上に貢献したいと思います。また、メーリングリストを活用し病理技師のつながりを持てるシステム構築の必要性を感じました。最後に藤野先生が講義の中で、（医師と技師との連係は不可欠である。）と言われた言葉が心に沁みました。

# 中高校生向け進学支援ガイダンス報告

## 中高校生向け体験ブース報告

藤田保健衛生大学病院　川島　佳晃（病理検査担当）

第56回日臨技中部圏支部医学検査学会において中高校生向け病理検査体験ブースの実務委員を担当させて頂きました。体験ブースは病理検査以外に化学検査、画像検査を合わせた３ブース設営して中高校生を迎えました。

準備に関しては、生理検査部門、生物化学検査部門の責任者、実行委員長と企画を練りながら臨床検査の仕事に興味を持って頂ける内容を提供しようと知恵を出し合いながら今年の４月から調整をしてきました。

その努力の甲斐あって、９月30日は14組、10月１日は28組の合計42組の生徒さんに体験ブースに参加して頂きました。父兄や教員の引率者を含めると80名近い参加者で、実務委員は休憩する暇もなく対応に追われ盛況のうちに終了することができました。中根副学会長からは、日臨技企画である中高校生企画の中で全国１の参加者だったのではないかと労いの言葉を頂きました。参加した中高校生が臨床検査の仕事に触れて、興味深く聴き入る姿はとても印象的に残っています。今回参加して下さった学生さんが、今後進路を決める中で臨床検査技師という職種が選択肢の一つになってくれたら幸いです。

最後に、実務委員を快く引き受けて下さいました研究班の皆様、体験ブースにご尽力頂きましたメーカーの皆様、受付を担当して下さった大学生の皆様、本当にありがとうございました。

## 養成校ブースでの進学相談会に参加して

藤田保健衛生大学　４年　尾崎　友美、藤澤優里香

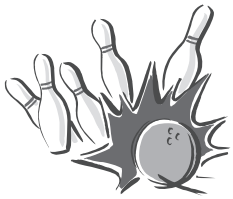
今回の学会で体験ブースと進学相談会の運営のお手伝いをしました。高校生や中学生の子がとても興味深い様子で参加していたのを見て運営を手伝ってよかったなと思いました。臨床検査技師の仕事内容や各大学の特色などを知ってもらういい機会であり、進路を決める際の参考になるといいなと思います。また、今まで他大学の同じ学科の人たちと話す機会はあまりなかったので、それぞれの大学の様子などお互い知ることができ、とてもいい経験となりました。

鈴鹿医療科学大学保健衛生学部医療栄養学科臨床検査コース　出谷　優季

私は10月１日に、第56回日臨技中部圏支部医学検査学会で開催された養成大学合同進学相談会において応援学生として参加させていただきました。相談会には多くの高校生や保護者の方が参加され、私はそこで様々な話をさせていただきました。

来場された多くの高校生が臨床検査技師を強く志望されており、学生生活や、技師の仕事の内容についての話をとても真剣に聞いていました。このような熱心な様子を見ることで改めて自分自身の気持ちを引き締めることができ、とても有意義な時間を過ごすことができました。

この貴重な経験を忘れることなく、勉学に励み、これからも邁進してゆきたいと思います。



# 第40回愛臨技スポーツ大会・懇親会報告

組織部長　牛田　展浩

平成29年10月28日(土)、スポルト名古屋にて第40回愛臨技スポーツ大会のボーリングが例年通り行われました。多数の会員、賛助会員の方の参加をいただき、団体賞、個人賞をかけて皆さん汗を流していました。その後、会場を浩養園に移して懇親会が行われ、ビールを片手に和気あいあいと親睦を深める時間になったかと思います。忙しい中、ご参加頂きました方々にはあらためて感謝申し上げます。
参加者：スポーツ大会　78名　　懇親会　63名

## 愛臨技スポーツ大会に参加して

半田市立半田病院　清原　大地

10月28日に愛臨技スポーツ大会に参加しました。我々半田病院は１週間前から練習会を開催し、この日の為に特訓を重ねてきました。結果は総合３位、女性個人３位、私が男性個人３位と好成績で終えることが出来ました。

ただ個人的には３位という結果にはまだ伸びしろがあると感じました。マイボウルを使用するからには下手なスコアは出せないというプレッシャー、ストライクが連続して並ぶにつれ集まるギャラリーからのプレッシャーがありました。このようなトーナメントにおいて結果を出すには、これらの緊張状態に対して日頃から鍛錬を積む必要があると感じました。来年はしっかりと調整を重ねてから大会に臨みたいと思います。

その後の懇親会では普段仕事場でしか交流のない賛助会員の方々ともボウリングの話を機に接することができ、皆さんと和気藹々と交流を深めることができました。

当日は台風が接近しておりあいにくの雨でしたが、ボウリングを通じてたくさんの技師の方々、賛助会員の方々と交流を持てとても楽しいひとときを過ごせました。

# 公益社団法人愛知県臨床検査技師会　学術部門
# 学術部研究班 班員募集のお知らせ

公益社団法人愛知県臨床検査技師会
会　長　椙山　広美

愛臨技学術部研究班では、会員の知識と検査技術の向上のため、研究会、基礎講座、講演会等を企画開催し、愛知県民の健康向上に寄与することを目的とした事業を展開しています。この度下記要項にて、平成30・31年度の学術部研究班班員を研究班毎に若干名募集いたします。目的に賛同して頂き、積極的に活動して頂ける方々を求めていますので奮ってご応募ください。また、班員就任後は研究班企画への参加は必須であり、愛臨技の行事への積極的参加もお願いすることをご承知おきください。

なお、班員数には定員がありますので応募者多数の場合は学術部にて調整し、お断りする場合もありますのでご容赦ください。

記

1．募集研究班：①　微生物検査研究班
②　血液検査研究班
③　生物化学分析検査研究班
④　病理細胞検査研究班
⑤　生理検査研究班
⑥　一般検査研究班
⑦　輸血検査研究班
⑧　遺伝子・染色体検査研究班
⑨　生殖医学検査研究班

2．募 集 人 数：各研究班　若干名

3．応 募 資 格：５年以内の日臨技生涯教育研修制度の修了者

4．申 込 方 法：下記申込事項①～⑥についてE-mailに記載しお申し込みください。

5．申 込 事 項：①　応募研究班名
②　会員番号
③　氏名
④　施設名・所属
⑤　施設住所・電話
⑥　応募分野の業務経験年数・応募動機

6．申 込 締 切：平成30年２月16日（金）

7．申　込　先：（公社）愛知県臨床検査技師会事務所　aamt@aichi-amt.or.jp

8．問 合 せ 先：学術部長　中井美千代
中部労災病院 中央検査部　電話：052-652-5511

以上

# 平成29年度病理細胞検査研究班　基礎講座に参加して

名古屋市立大学病院　病理診断部　湯浅　健人

平成29年10月22日（日）に行われた病理細胞検査研究班　基礎講座に参加しました。

今回のテーマは「免疫染色の基礎」で、午前は講座を中心に、午後は実習も交えながら理解を深めました。

免疫染色とは特定の抗原に結合する抗体を利用して、抗原物質の局在やそれを発現する細胞要素を可視化する方法で、その染色結果から治療方法を選択する為、信頼性のある染色結果が必要とされます。

午前の講義を通して、染色段階だけでなく、検査前段階も染色結果に大きく関与する事を再確認しました。

加えて、決められたプロトコールを遵守しながらも、個々の標本と向き合い、丁寧に対応する事が重要だと学びました。

午後の実習では電界非接地撹拌技術を用いた迅速免疫染色を体験させていただきました。

講義を聴き、実際に体験してみて、迅速免疫染色は腫瘍の診断を補助する点で非常に有用であると感じました。

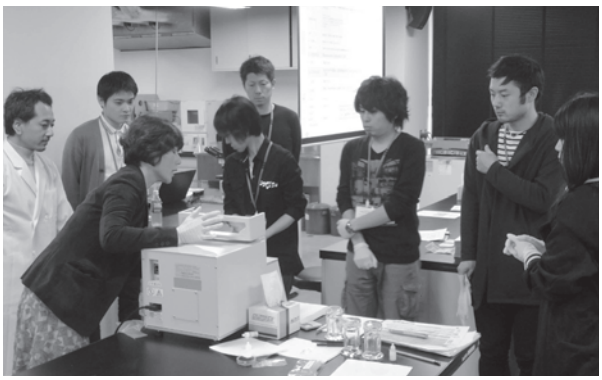
そして同時に、煩雑な工程を迅速化する事で生じる弊害について理解しなければならないと学びました。

現在、免疫染色は多くの施設で自動染色装置が導入されており、マニュアル通り行えば誰でも染色を行う事が出来ます。しかし染色性の良し悪しなど判断する点において、原理を理解し、知識の収集を継続しなければならないと痛感しました。

今後もこのような研鑽を積む事の出来る場を大切にしていきたいと思います。

最後にこの貴重な講座を開催してくださった全ての方々にこの場をお借りして心からお礼申し上げます。

総合大雄会病院　宮田　一史



平成29年10月22日に名古屋大学医学部保健学科で開催された病理細胞検査研究班の基礎講座「免疫染色の基礎」に参加しました。

午前の講義では、免疫染色の目的やガイドラインから始まり、染色結果の評価方法や適正標本と不適正標本との比較した説明、免疫染色の精度管理等の講義でした。特に精度管理では免疫染色のプロトコルや試薬の調製はもちろんのこと、検査前の段階である固定や脱灰でも大きな影響を与えるということを画像でわかりやすく説明していただきました。免疫染色は丁寧な作業が必要ですが、固定不足や過固定なども免疫染色の染色性の低下につながるということがよく分かりました。午後は自動免疫染色装置やマイクロピペットの取り扱いやトラブルシューティング等、日常業務で困ったときの対処の仕方や簡単なメンテナンスを教えてもらいました。講義で教えて頂いたことはすぐに取り入れられることばかりなので、これらのことを意識して今後、励んでいきたいです。

実習では電解撹拌染色装置を用いた迅速免疫染色を行いました。迅速免疫染色を導入している施設はまだ少なく、なかなか体験することのできないため非常に有意義なものであり、自身の技術や知識の幅を広げる貴重な経験となりました。このような勉強会の機会を設けて頂いた病理細胞研究班の方々、また多忙な中、講演して頂いた先生方に感謝いたします。

# 微生物検査研究班　基礎講座に参加して

医療法人豊田会刈谷豊田総合病院　加藤　麻琴

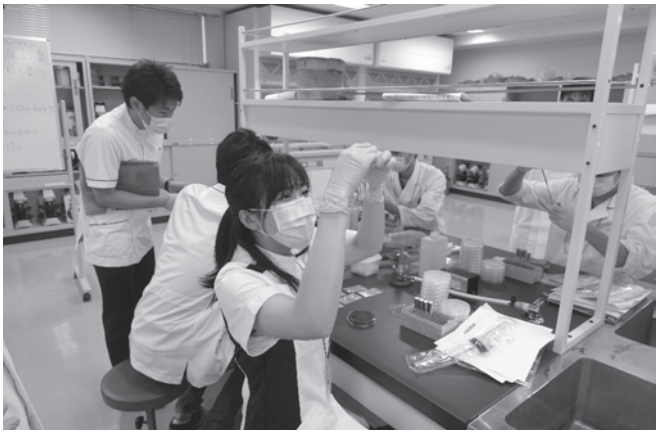
平成29年10月28日、29日の２日間に渡り開催された微生物検査研究班基礎講座に参加させていただきました。例年、人気の講座のため早く申し込みをするよう先輩からのアドバイスを頂き、受付初日に意気込み100％以上で申し込みました。のちに受付開始から数日で定員に達したことを聞き安堵しました。

講座１日目は抗菌薬耐性菌に関する講義を４演題聴講した後に抗菌薬耐性菌の確認試験を実演し、２日目にはその判定に関する実習と解説がなされました。基礎講座ということもあり、なぜ抗菌薬耐性菌の検出が重要なのか？そのためにデータからどう気づき、自身が何をすべきなのか？をわかり易く教えていただき、今までの教科書的な知識や曖昧な部分が一つに繋がり、臨床現場で必要な知識・技術として整理するのにとても役立ちました。

実習では実務委員の方々が常にそばについてくださり、細やかな検査手技についてもアドバイスして頂きました。菌液調整一つにおいてもその意義とポイントを解説頂き自身の技術向上が体感できました。また、日頃のささいな疑問にも気軽に訊くことができる環境がとてもありがたく感じました。また、今回の講座は自分が実施した検査を翌日に自身で判定する形式で、他の参加者の方々と相談し比較しながら進める事が出来、技術的な改善点に加えてコミュニケーションをとることの大切さが改めてわかりました。

今回の基礎講座で得た知識・技術を実際の業務内で活かせるようテーマにある“PDCAサイクル”を意識し成長し続けたいと思います。

最後に微生物研究班基礎講座を開催してくださったすべての方々にこの場をお借りして心から御礼申し上げます。



**2017年11月10日現在　正会員数　3,271名**

**お詫びと訂正**

らぼニュース11月号巻末のスキルアップ研修会のご案内で誤植がいくつかありました。

12月号巻末に再掲載しました。

よろしくご確認ください。

# 地区研修会のご案内

## 尾張東地区研修会

専門教科：20点
日　　時：平成30年１月13日（土）15：00 ～ 17：00
場　　所：名古屋市立東部医療センター
　　救急外来棟４階多目的ホール
テ ー マ：忘れてはいけない検査のポイント
　　～日常検査と救急医療～
講　　師：１．日当直における緊急検査
　　トヨタ記念病院　　和出　弘章
　　２．救命センター専属技師としての役割
　　藤田保健衛生大学病院　中村　和広
　　３．生化学検査におけるデータ解釈とピットホール
　　厚生連足助病院　　山田　幸司
司　　会：名古屋市立東部医療センター
　　南里　隆憲
内　　容：2017年６月に成立した「医療法等の一部を改正する法律案」に盛り込まれた検体検査の精度の確保については、我々、臨床検査技師が安全で適切な医療を提供するために貢献していかなければなりません。そしてチーム医療として検査室から臨床の現場へ赴き活躍されている臨床検査技師も増えつつあります。検体検査、救急医療について興味がある、学びたいと思われている多くの方の参加をお待ちしております。

## 知多地区研修会

専門教科：20点
日　　時：平成30年２月15日（木）19：00 ～ 20：00
場　　所：一般社団法人　半田市医師会健康管理センター
　　PET棟　４階　大会議室
テ ー マ：睡眠不足・睡眠障害がもたらす心血管病と認知機能の低下
　　―高血圧・循環器病予防療養指導士と認定認知症領域検査技師―
講　　師：中部大学生命健康科学部生命医科学科
　　教授　　野田　明子
司　　会：厚生連　知多厚生病院　臨床検査科
　　技師長　　大岩　啓三
内　　容：睡眠時間の短縮や睡眠周期の変化を引き起こし、眠気や疲労感の増大、気力の減退、注意や記憶力の低下などをきたす。さらに、睡眠不足や睡眠障害は肥満、生活習慣病、心血管病の罹患リスクを高めるばかりか、うつ病などの精神疾患の発症や症状増悪などこころとからだの健康に悪影響をもたらす。今回の講演では睡眠と生活習慣病や認知症との関係について知り、新しい臨床検査技師認定資格の今後の展開を考える。

## 西三河地区研修会

専門教科：20点
日　　時：平成30年２月24日（土）15：00 ～ 17：00
場　　所：八千代病院　新棟５階会議室
テ ー マ：妊活と女性の働きやすい職場環境
講　　師：１．みつめなおそう女性のカラダ
　　－男性にも知ってほしい妊娠の知識－
　　トヨタ記念病院　　菅原　　雅
　　２．臨床検査の未来は女性技師に託された
　　－求められる職場環境・意識・責務を考える－
　　刈谷豊田総合病院　　中村　清忠
司　　会：碧南市民病院　　井上　正朗
内　　容：女性の検査技師は約７割に達し、職場や技師会活動において、女性の活躍が欠かせないものとなっています。一方で、晩婚化などの影響もあり、不妊に悩む女性も増えています。
　　こうした「仕事と生活の調和」いわゆるワークライフバランスへの取り組みが、現代の企業や職場にも求められてきています。
　　今回、不妊治療を含む妊娠活動（妊活）と職場環境改善をテーマにあげ、「理想

のワークライフの実現」について皆さんと考えていきたいと思います。多数の参加をお待ちしています。

## 尾張南地区研修会

基礎教科：20点
日　　時：平成30年２月24日（土）15：00 ～ 16：30
場　　所：名古屋市立大学　医学研究科　医学部研究棟11階講義室B
テ ー マ：認知症の日常診療と最近の話題
講　　師：JCHO中京病院　神経内科　部長
藤城健一郎
司　　会：JCHO中京病院　検査部　技師長
片山　孝文
内　　容：尾張南地区を医療圏とするJCHO中京病院、藤城先生に認知症について講演していただきます。先生は日本認知症学会専門医・指導医であり、独立行政法人地域医療推進機構・認知症対応力向上研修では、医療専門職を対象とした講師を例年務めています。私たち技師が認知症への気づきに役立つ講演をお願いしてあります。研修会では、菅谷直美技師（認定認知症領域検査技師）による、資格についての紹介を併せて行います。認知症や資格取得に興味のある方、地区を問わず、多くの参加をお待ちしています。

## 平成29年度　中部圏支部<br>病理細胞検査研修会

日　　時：平成30年２月17日（土）12：20 ～
平成30年２月18日（日）12：00
場　　所：岐阜大学医学部(記念会館・実習室)
テ ー マ：「徹底攻略！軟部腫瘍」
「デスミン抗体免疫染色サーベイ」
定　　員：130名
申込締め切り：平成29年12月24日（日）
申し込み方法：日臨技HPの会員専用ページから事前登録を行って下さい。
※本研修会は認定病理技師指定講習会・日本臨床細胞学会クレジットが取得できるよう申請中です。

## 研　究　会　遺伝子染色体検査研究班

専門教科：20点
日　　時：平成30年１月13日（土）15：00 ～ 17：00
場　　所：名古屋大学医学部基礎研究棟第三講義室
テ ー マ：「治る病気へ！昨今のHCV治療と検査」
講　　師：１．最適な治療のためのHCV遺伝子検査
刈谷豊田総合病院　　伊藤　英史
２．最近のHCV治療について
名古屋大学医学部附属病院
消化器内科講師　　林　　和彦
司　　会：名古屋大学医学部附属病院　渡邊かなえ
内　　容：HCVの治療成績は、直接型抗ウイルス薬（DAAs）が薬事承認されて以来、飛躍的に向上しています。今回は最適な治療を選択するためのジェノタイプ検査や、最新のHCV治療に関する話題について解説していただきます。

## 研　究　会　生理検査研究班

専門教科：20点
日　　時：平成30年１月20日（土）15：00 ～ 17：00
場　　所：名古屋大学医学部基礎研究棟３階
第１講義室
テ ー マ：術中モニタリング～基礎から症例へ～
講　　師：１．術中モニタリングの基礎
西尾市民病院　　鈴木　更織
２．術中モニタリング 応用編
～症例を中心に～
名古屋大学医学部附属病院
大熊　相子
司　　会：総合大雄会病院　　西谷由美子
内　　容：臨床検査技師がチームの一員として仕事を行う術中モニタリング。多様な状況に立たされ、瞬時の判断を求められる難しい業務です。
今回の研究会は、これから始められる方もスムーズに術中モニタリングに入れるよう“基礎から症例へ”と繋がる内容です。症例は「こんなときどうする？」の一助になる事例を呈示していただきます。基礎から症例へ体系的に学んでチームの一員として活躍する技師を目指しましょう。

再掲載

# 平成29年度愛臨技　スキルアップ研修会
# 『救急病態と臨床検査を繋ぐ.Ⅱ』

【日　　時】平成30年１月28日（日）９：00～16：50（８：30から受付）
【会　　場】名古屋市立大学医学部医学研究科・医学部研究棟11階 講義室A
【募集人数】150名
【参 加 費】会員　2,000円　　他県会員　2,500円　　非会員　4,000円
【申し込み】平成29年12月１日から12月22日まで**日臨技HP 会員専用サイト**から事前申込。
非会員の方は下記問い合わせ先まで直接ご連絡ください。
【生涯教育】専門　20点
【内　　容】専門分野のコメンテーターが「意識レベル低下」の２症例の救急病態をみなさんと一緒に読み解いていきます。奮ってご参加ください。

【プログラム】

８：30～９：00　受付

９：00～９：10　オリエンテーション・開講式

９：10～10：10　**講演１「血液ガスの判読と救急病態」**
ラジオメーター株式会社　学術課　三沢　泰一

症例検討コメンテーター
公立陶生病院　位田　陽史
藤田保健衛生大学病院　西垣　亮
JA愛知厚生連　海南病院　樋口　昌哉
増子記念病院　平田　弘美
藤田保健衛生大学病院　松浦　秀哲
JA愛知厚生連 稲沢厚生病院　蒲澤　康晃

10：20～11：40　**症例１「意識がない？！」**
司会　中部労災病院　中井美千代

12：00～13：00　**ランチョンセミナー「輸血検査のトラブルシューティング」**
オーソ・クリニカル・ダイアグノスティックス株式会社　学術担当

13：20～15：20　**症例２「意識がない？！」**
司会　名古屋大学大学院　鈴木　博子

15：40～16：40　**特別講演「意識障害：救急医が考えること」**
名古屋市立東部医療センター　救急科部長　安藤　雅樹

16：40～16：50　閉講式

問合せ先　中部労災病院　中央検査部　中井美千代
TEL：052-652-5511

公益社団法人
愛知県臨床検査技師会